

# 河川計画の構成

## 河川整備基本方針（長期的な基本計画）

### 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減  
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

**河川環境の整備と保全**

### 2. 河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項

基本高水及びその河道と洪水調節施設への配分

主要な地点の計画高水流量

主要な地点の計画高水位及び横断形に係わる川幅

主要な地点の流水の正常な機能を維持するために必要な流量

## 河川整備計画（20～30年の具体的・段階的な計画）

### 1. 河川整備の目標

河川整備計画の対象区間、対象期間

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

河川環境の整備と保全に関する目標

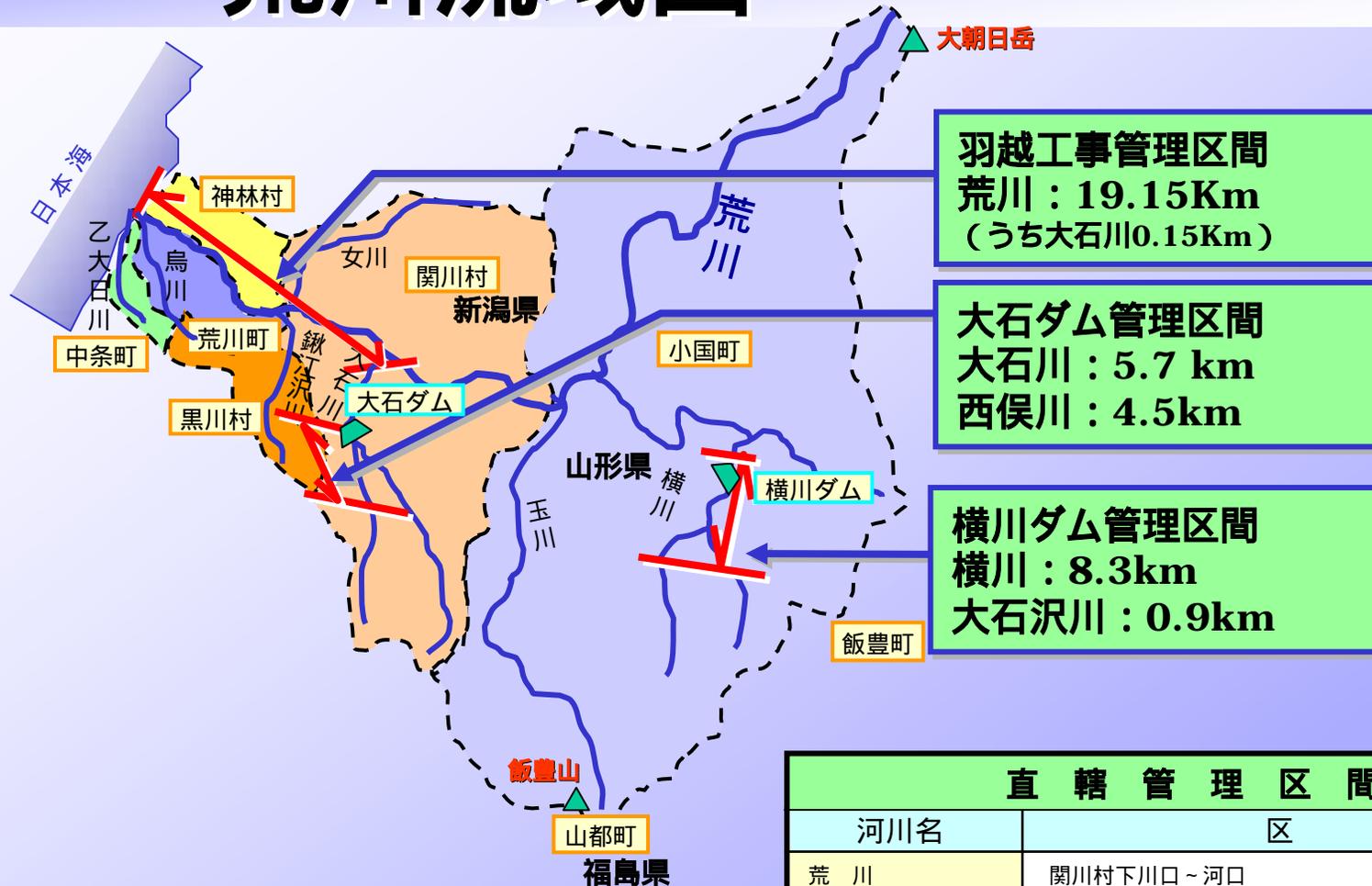
### 2. 河川工事の実施に関する事項

河川工事の目的、種類、施行の場所

当該工事による主要な河川管理施設の機能

**河川の維持の目的、種類、施行の場所**

# 荒川流域図



直轄管理区間	
河川名	区間
荒川	関川村下川口～河口
大石川	関川村上関(県道川口橋)～荒川合流点
大石川(ダム区間)	関川村大字大石林道第16号橋～大字大石モチ八沢
西俣川(ダム区間)	関川村中俣川の合流点～大石川への合流点
横川(ダム区間)	小国町大字新股字河窪～小国町大字ラツケバ国有林
大石沢川(ダム区間)	小国町大字叶水字松籠前～横川合流点

# 荒川水系河川整備基本方針について

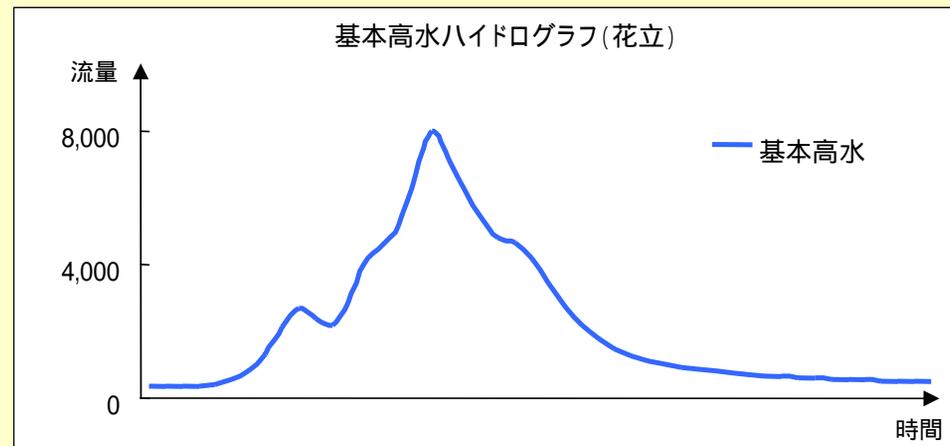
荒川水系河川整備基本方針については、国土交通大臣が社会資本整備審議会(河川分科会)に意見を求め、審議のうえ平成14年4月4日に国土交通大臣が策定した。

## 荒川の基本高水ピーク流量

荒川の基本高水ピーク流量は、以下により花立地点で8,000 $\text{m}^3/\text{s}$ とした

荒川流域に甚大な被害を与えた昭和42年8月の羽越水害の実績雨量等からピーク流量を算定すると花立地点で8,000 $\text{m}^3/\text{s}$ 。

過去の流量データを確率統計処理した結果、氾濫原の重要度や人口・資産の分布状況等から荒川において妥当とされる1/100確率流量は概ね8,000 $\text{m}^3/\text{s}$ とされる。



# 荒川の計画高水流量

荒川の計画高水流量は、以下により花立地点で6,500m<sup>3</sup>/sとした。

荒川の計画高水流量は、羽越水害当時に下記を勘案し、花立地点で6,500m<sup>3</sup>/sとして緊急的に整備が進められ、これまでに、約150棟の移転等を伴う引き堤等が既に実施されている。

【羽越水害当時の留意事項】

- ・羽越水害からの早期の復興、治水安全度の確保。
- ・鉄道、道路の早期の交通確保。
- ・大被害を受けた荒川取水堰の改築。
- ・国道113号、JR米坂線が平行している花立狭窄部の可能な限りの拡幅。
- ・沿川住民の生活を確保するため、家屋や農地の確保。

河道改修は、社会的影響、河川環境への影響、狭窄部拡幅の難易性などを考慮すると、河道での洪水処理可能量は6,500m<sup>3</sup>/sが限界である。



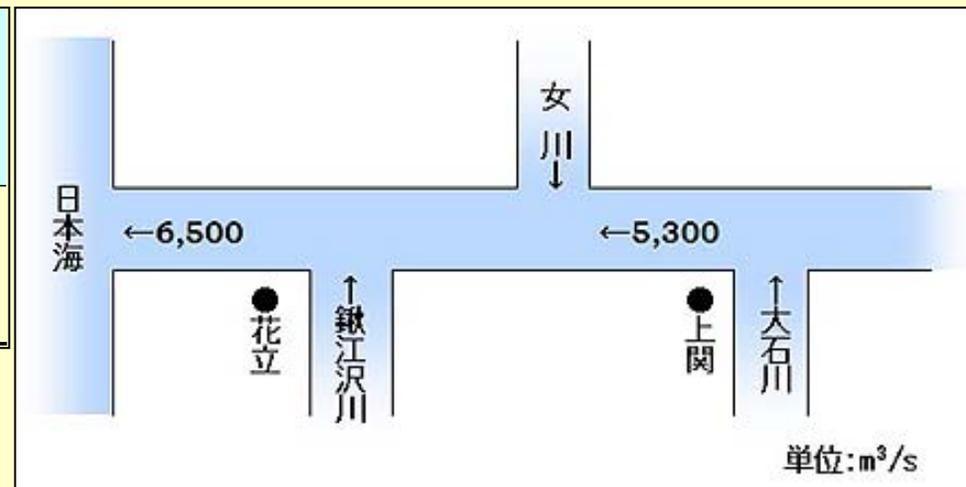
# 荒川の洪水調節量

河道で処理できない $1,500\text{ m}^3/\text{s}$ の高水処理計画については、既設の大石ダムに加えて必要な洪水調節施設を、技術的、社会的、経済的見知から検討する。

基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	洪水調節施設による調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
荒川	花立	8,000	1,500	6,500

## 計画高水流量図



# 荒川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量

荒川の正常な機能を維持するために必要な流量は、以下により花立(葛籠山)地点において概ね $9\text{m}^3/\text{s}$ とした。

## 動植物の保護・漁業について

荒川水系の魚類生息実態から以下の代表魚種に着目し、それぞれ魚類の生息のために河川に確保すべき流量を算出。

代表魚種: アユ、サクラマス、アメマス、サケ、ウツセミカジカ、  
ヨシノボリ類、ウナギ、カジカ河川型、アカザ、ヤマメ、  
イワナ、ウグイ、エゾウグイ、アブラハヤ、オイカワ、ニゴイ

## 舟運について

舟運としてはアユ、サケ漁のささ舟が航行しており、そのきつ水深を確保するために必要な流量を算出。